

# 岡谷市議会経済建設委員会 行政視察報告

1. 視察日程 平成21年10月6日(火)～9日(金)

## 2. 調査事項(視察先)

- (1) 石狩の宝発掘宣言について  
(「観光」における市民・事業者・行政協働のまちづくり) (北海道 石狩市)
- (2) 地場農産品流通促進事業について  
(地場産品発掘ブランド化プロジェクトと農産物消費拡大促進協議会について)  
(北海道 岩見沢市)
- (3) e-ものづくりのまち事業について  
(ホームページを利用した産業観光紹介) (北海道 室蘭市)
- (4) 環境産業拠点形成実施計画について (北海道 室蘭市)
- (5) ビジネスフロンティアカップ事業について (北海道 函館市)

3. 視察参加者委員	委員長	浜	幸平
	副委員長	征矢	久
	委員	八木	敏郎
		齋藤	美恵子
		杉村	修一
		三沢	一友

## 1. 調査事項 (石狩市)

- ・石狩の宝発掘宣言について (北海道 石狩市)  
人口：約 61,200人 面積：約 721 km<sup>2</sup>

### 石狩市観光振興計画

テーマ 「石狩市の宝を発見して磨き、観光のまちづくりで地域を潤す」

## 2. 視察日時 平成21年10月6日(火) 13:30～ 石狩市役所にて

## 3. 参加者所感

- ・全国的にも知名度の高い石狩鍋を、市内の多くの飲食店で提供できるように、重点地区を決めて積極的なPR活動を進め、石狩の食文化を広げるきっかけ作りにしたことは参考となった。
- ・担当課長はキャンピングカーで寝泊まりしながら、2週間ほど全国を周って情報収集を行った。このような熱意と行動力を持った人材が岡谷市にも必要であると思う。観光で盛り上げていこうという意気込みが伝わってきた。
- ・岡谷市はやっと観光振興に力を入れ出した。製糸が盛んであった頃の産業遺産群に力をもっと入れ、市民からのアイデアなどを取り入れ、観光客の増大を図ることが大切である。
- ・協働によっての街を発展させるという協働認識の上に立っての施策は当たり前のようなことだが、なかなか難しいことであり参考になった。
- ・基本となる計画自体が非常に良く練り上げられており、市民にも分かりやすいものとなっていると思う。この点については大いに学ぶべきことである。

### 岡谷市政として取り組んでいく場合

- ・岡谷市において、独自の特色のある食文化を広げるという意味では、ウナギがあるが、地域との結び付きという点で弱いのではないか？
- ・地元食材を利用した、食文化を広げることが必要と思われる。

## 1. 調査事項 (岩見沢市)

- ・ 地場農産品の流通事業について (北海道 岩見沢市)  
人口：約 91,800人 面積：約 481 km<sup>2</sup>

地場農産品流通促進事業  
(地場産品発掘ブランド化プロジェクト)

農産物消費拡大促進協議会  
地場産品発掘ブランド化プロジェクト及び農産物消費拡大促進協議会における  
事業化までの経過・状況・課題を中心に視察

## 2. 視察日時 平成21年10月7日(水) 10:00～ 岩見沢市役所にて

## 3. 参加者所感

- ・ 市職員の農協職員の交流も生まれている。ここでも日本の農業問題の課題である後継者不足に悩んでおり、この大きな課題をどのように解決していくのか、注目するところである。
- ・ 説明してくれた職員が農協からの出向と聞いてまず驚かされた。
- ・ 後継者不足から農地の荒廃、高齢化からますます農地転売などが増加傾向にあり、大変な時代になってきている地産地消などが今後の問題であると感じた。
- ・ 基幹産業である農業について岡谷市と比ではないが、JA職員を市職員として迎え入れていることは評価できる。
- ・ 鳥獣被害は大きな課題である。農業専業率が75.5パーセントと高いが、農業だけで生活できないと離農する、後継者不足という実態がある。国の農業政策の不備を感じる。

### 岡谷市政として取り組んでいく場合

- ・ 岡谷市内においては、農地がきわめて少ないため実現不可能ではあるが、地元産品を積極的に売り込んでいく姿勢と、首都圏との結び付きを大切に実績を積み上げてゆく努力については、学ぶべき点が多いと思う。

## 1. 調査事項 (室蘭市)

- ・ e-ものづくりのまち事業 (北海道 室蘭市)  
人口：約 96,900人 面積：約 81 km<sup>2</sup>

ホームページを利用した産業観光紹介

モノづくりをテーマとし、地域の産学官民の協働によって、様々なものづくりをそのままコンテンツ化し、モノづくりのまちをバーチャル体験できるサイトを構築するものである。

## 2. 視察日時 平成21年10月8日(木) 9:30～ 室蘭市役所にて

## 3. 参加者所感

- ・ 伝統工芸から環境産業まで地域固有の産業価値として、全国発信してゆくのは有効である。また市内のIT企業がサイトの構築、システム開発を担当するほか、市内のNPOがコンテンツ企画、取材、政策に積極参加しては大いに参考になった。
- ・ 地域住民の自信と誇りの復活を目指しているが、NPO法人の活用がカギとなっていると思われる。また長野県のPCB廃棄物の処理が北の大地で行われていることについては、考えさせられることである。
- ・ 動画などを活用しているのは有効であると感じた。また親子体験コースにおいてはゲーム方式を利用することによって子供は興味を持って学習できるようになっている。
- ・ これからは環境重視した産業求める時代であると思う。室蘭市を視察してみて感じた。ぜひ室蘭市との交流を行いたいものである。
- ・ モノづくりの技術や、それにかける人の魂を、ITを活用して全国リアルタイムに伝え、地域の誇りとして生かすことは必要であると感じた。

岡谷市政として取り組んでいく場合

- ・ 地域住民も含めて、総参加で作り上げることが大切である。
- ・ ホームページの出来具合が大変重要であり、その内容、また使いやすさなどが合格点にまで達していることが重要である。

## 1. 調査事項 (室蘭市)

### ・環境産業拠点形成 実施計画

(北海道 室蘭市)

人口：約 96,900人 面積：約 81 km<sup>2</sup>

環境産業を支える地域社会システムを構築し、  
持続的に発展可能な環境産業都市の形成を目指している。

## 2. 視察日時 平成21年10月8日(木) 9:30～ 室蘭市役所にて

## 3. 参加者所感

- ・ 日本を代表する企業の工場を有し、産学官民連携して環境産業の事業化が進み、大変うらやましい限りである。岡谷市でも指をくわえているだけでなく、少しでも参考になるなら検討すべきである。
- ・ それぞれの事業での取組を、環境産業の集積地として全国に発信している。リーマンショックの影響が少ないということで人口が10万人に復帰できそうだと予測しているとのこと、人口問題に頭を痛めている自治体が多い中で何ともうらやましいことであると感じた。
- ・ 室蘭市あげての、産学官民での取り組みが見られる。スケールの大きいまちづくりならではの、必要に迫られた取り組みと判断できる。資金力の強さも条件の一つだと思われる。
- ・ 個々の企業で不足している点、また協力できる点を行政がとりまとめる中で、その仲介役をとっていることは、多いに評価できる。
- ・ 人口はピーク時には16万人、昭和60年に13.6万人、現在9.6万人に減少しておりこれは市内大企業の規模縮小に伴うものであり、新日本製鉄においては4基ある高炉のうち1基が稼働している状況である。市内基幹産業の相互連携を図る中で、それぞれの企業が持っていない経営資源を相互に補完仕合って有効に結びついている点は多いに参考になった。

### 岡谷市政として取り組んでいく場合

- ・ 室蘭地域環境産業推進協議会メンバーはじめとして、室蘭工業大学、新日本製鉄、日本製鋼所、新日本石油精製、日鐵セメント、檜崎製作所、北海道電力室蘭支店、室蘭地域環境産業推進コア、室蘭商工会議所、北海道庁、室蘭市などが有機的なまちづくりを行っている。それらの横の連携は大変見事なものである。これらが岡谷市にどのように生かされるのか、今後の研究課題としたい。

## 1. 調査事項 (函館市)

- ・ビジネスフロンティアカップ事業 (北海道 函館市)  
人口：約 61,200人 面積：約 721 km<sup>2</sup>

函館市における起業家に対する、各ステージ別の支援体制について、啓発的な事業として取り上げられている企画がビジネスフロンティアカップである。

## 2. 視察日時 平成21年10月9日(金) 10:00～ 函館市役所にて

## 3. 参加者所感

- ・ 函館市内には高専・大学などが8つ(大学4、短大2、高専1、ロシア語1)あり、学生など大勢いることから企画されたことと思うが、スタートした年度に比べて募集実績が減少しているようである。この受賞した内容については触れないが、大学間でもこれに応募する形で協力しているようである。  
またこの企画がスタートラインとして、地元での起業家との連携や、市内への就職に役立っているものと思われる。
- ・ 新事業の創出を図り、雇用創出のため事業化の促進に努めており、アイデア・内容の豊富さに驚く。
- ・ 人材が豊富にあることはうらやましい。函館という町に魅力がなければ、人は集まってこない、知名度では押しも押されもしない存在であるが、函館で起業してみませんか？ という努力は、攻めの姿勢が見え感心しました。
- ・ 函館は横浜、神戸、長崎とともに国際感覚が息づく長い歴史と文化を有する街である。赤れんがの倉庫と古い街並みをうまく利用している観光立市である。古い建物がのこっていない岡谷市は残念でならない。
- ・ 現在 函館市は国際観光都市として政策が立てられている。函館の朝市、夜の函館山からの夜景は絶品であるし、五稜郭の歴史的な意味合いも大きい、そういった部分で大変うらやましい。

### 岡谷市政として取り組んでいく場合

- ・ 費用負担も多くないことから、取り入れることは可能であると思うが、大学などが多くないことから、募集しても、どの程度集まるか疑問も出る。長野県内など、ある程度の広域に呼び掛けて行った場合は、岡谷市に対してのプラス効果を検証すると共に費用便益の分析が必要であろう。